

【スーパードリルの穿孔方法について】

1. 穿孔箇所に近づき、力の入りやすい位置に体を近寄せます。ボンベホルダーは、なるべく体に近い位置に、縦置きで設置してください。
2. ドリルの刃先を壁に押し当て、冷却剤が確実に出るかどうかを確認します。
3. ドリルの電源を入れ、モーターの回転を確認したら、直ちにドリルの先端ダストシールを壁に押し当て穿孔の準備に入ります。
4. モーターをそのまま回転させながら、壁面にビットを当て、ビットのブレが無くなるまで（深さ2mm程度）ドリルを軽く押しします。
5. 刃先が滑らないことを確認したら、軽く体重をかけながらドリルを押ししてください。
6. 深さを調整したストッパーネジが、壁面に当たるまで、穿孔し続けてください。
穿孔中、異音がしたり、進まなくなった時は、無理に押すのをやめ、ビット内部のコア詰まりや冷却剤の残量を確認してください。
異音がし、進まなくなった場合、無理に押すと、ビットが著しく消耗するだけでなく、ボディが破損する恐れがあります。
7. ビットは、刃の根元2mm～3mm程度のなると切れなくなります。新しいビットに交換してください。
ボディも長く使用しますと、ネジ部付近がやせ細り、折れてしまいます。折れる前に交換してください。
冷却剤がなくなると、ビットが焼けたり、ボディ内部にコアが詰まる等のトラブルが発生します。冷却剤の残量に気を付けて、無くなる前に交換してください。
8. 穿孔中の廃液は、専用のプラスチックボトルを取り付けて頂くか、ケースに同梱してあるホースを取り付けて頂き、バケツやペットボトル等にて回収してください。
※廃液は、10分程度で透明な冷却液とコンクリートのカスとに分離します。
上澄みの冷却液は、水道水と同様に廃棄できますが、沈んだコンクリートのカス（ノロ等）は、産業廃棄物として処理してください。
9. プラスチックボトル等で回収できずに流れ落ちた廃液は、乾いたウエス等で綺麗に拭き取ってください。

【穿孔時に必要な工具等】

- ・プライヤー ・モンキーレンチ（スパナ） ・六角レンチ ・ドライバー
- ・スーパードリル用ボディ掃除棒（コア詰まり掃除棒） ・千枚通し ・ウエス
- ・潤滑剤 ・防錆剤 ・バケツ ・カッター ・ハサミ ・電気コード（ドラム） 他